



■最近の話題

「ほ場整備技術力向上研修会」が開催されました

平成29年2月14日（火）、青森市のアピオあおもりにおいて、「ほ場整備技術力向上研修会」が開催され、生産者や建設業者、行政などの関係者が多数参加しました。

県では、水田農業の省力・低コスト化を図るとともに、高収益作物への転換を促進するため、水田の大区画化や排水改良などのほ場整備に取り組んでおり、生産者からも多くの要望が寄せられていることから、「あおもり型ほ場整備低コスト化推進事業」により、ほ場整備の低コスト化に向けた県独自の取組を行っています。



【熱心に説明を聞く参加者の皆さん】



【(有)奈良岡ファーム 奈良岡代表】

今回、本研修会において、ほ場整備を実施して高収益作物へ転換した地区の事例や本事業の取組内容などが紹介されました。

はじめに、青森県藤崎町で土づくりにこだわりながらりんごやにんにく、米を栽培している(有)奈良岡ファームの奈良岡代表が、「ほ場整備実施地区における高収益作物への転換事例ー福島徳下地区（藤崎町）経営体育成基盤整備事業ー」と題して講演を行い、福島地域の農業の特徴やほ場整備に取り組んだ経緯、ほ場整備事業の効果などについて紹介しました。

続いて、県の担当者が、ほ場整備の低コスト化に向けて、県が独自の整備基準を策定したことを説明し、これにより、生産者は将来の営農計画を踏まえ最適な整備水準を選択できるようになることを紹介しました。

最後に、県内でほ場整備を実施している十三湖地区と土場川地区の取組を例にとり、県の担当者からは設計上の注意点や地元対応など、施工業者の担当者からは具体的な施工方法や施工時の留意点、苦労した点などが詳しく紹介されました。

今回の研修会を通じて、ほ場整備に関する技術力の向上が図られるとともに、県内での基盤づくりが一層強化されることを期待しています。



【彦建設(株) 吹越氏】

■「環境公共」事例紹介

農・林・水の連携「健やかわくわく森林ウォーキング in 下北」が開催されました

平成28年9月3～4日、むつ市において「健やかわくわく森林ウォーキング in 下北」が開催され、森林・林業や健康づくりに関心のある方が多数参加しました。

3日には、むつグランドホテルにおいて、シンガーソングライターとして活躍中の加賀谷はつみ氏によるトレッキングの楽しさ等についての講演会が行われたほか、森林セラピストの野宮正宣氏（環境公共プロフェッショナル）によるドイツ式健康ウォーキング法やむつ市大畑町大安寺副住職の長岡俊成氏による地域と森林のつながりについての事例報告がされました。また、下北地域県民局の各部局やむつ市が、地域の農林水産業や健康づくりについてのパネル展示を行い、健康維持や運動不足解消への意識啓発を図りました。



【会場でのパネル展の様子】

翌日には、むつ市大畑町大安寺において、野宮氏及び環境公共プロフェッショナルの瀬川威氏を講師として森林ウォーキングイベントが行われ、参加者は野宮氏が青森市浅虫地区で実践している「汗をかかず、頑張り過ぎない」を基本的な考えとした健康ウォーキング法を体験するとともに、間伐や枝打ち作業などの林業体験を通じて地域の環境を守ることへの理解を深めました。大安寺は昔から地域コミュニティの拠点とされており、昭和50年代や平成5年から3年間県が公共事業を行い、この地域資源を引き継ぐため、現在も地域の重要な交流の場となっています。県は大安寺のほかにも大畑町薬研溪流や脇野沢牛の首地区など下北地域の18箇所を森林ウォーキングコースとしており、森林を活用した継続的な健康づくりを提案しています。参加者は森林内の歩道をゆっくり歩くことで健やかさを感じ、「体が軽くなり、気分がすっきりした」「森林での新しい楽しみ方を見つけた」と感想を述べていました。



【血圧測定により健康状態を確認する参加者】



【大安寺の裏山での森林ウォーキングの様子】